

西尾市  
学生議会

令和3年1月21日 午後3時30分から午後4時30分まで

西尾中学校 オアシスルーム

## 総合政策部長／高原 浩

皆さん、こんにちは。それでは、お時間になりましたので、ただいまから学生議会を開会いたします。

本日は貴重な時間をいただきまして、どうもありがとうございました。

私は、進行を務めさせていただきます総合政策部長の高原と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、市の関係者を紹介いたします。

平井校長先生の左隣に中村市長です。こちら近藤副市長です。学生議会を担当いたします秘書広報広聴課の犬塚課長です。最後に福井主任主査です。どうぞよろしくをお願いいたします。なお、本日ご提案いただいた内容に関係する部局長も出席をする予定をしていますが、愛知県に緊急事態宣言が出されているということで大変厳しい状況にありますので、市からの出席者を最小限にして開催いたしますので、よろしく申し上げます。

さて、この学生議会は、西尾市の将来を担う若い世代の皆さん方から、まちづくりに関するご意見やご提案などをお聞きして、未来に夢や希望が持てるワクワクする西尾の実現に向けて参考にさせていただくとともに、皆さん方には市政に対する関心や理解を深めて、共に考えていただくことを目的に開催をするものであります。

開会前に、本日机の上にお配りしております4種類のパンフレットがありますので、ちょっと説明をさせていただきます。

1つ目は表紙に「24 にしおじかん」とあるもの、それから2つ目が「ムゲンのミライ」、3つ目が「ローカル就活ガイドブック～ローカルではたらこう～」、4つ目が「頑張るものづくり企業 in 西尾」です。

西尾市は、年間を通じて比較的温暖な気候で、土地の価格も近隣市と比べて安く、生活をするには大変恵まれた地域であります。また、子育てだとか、教育環境からも若い世代の人たちから「日々の暮らしを楽しみながら子育てができる環境だ」という意見もお聞きしております。

また、産業面においては、県内有数のものづくりの集積地となっており、将来性のある企業だとか、高い技術力を有するものづくり企業が多くありまして、雇用の面において比較的安定しております。

皆さんは卒業した後に、進学などで一時的にこの西尾市から離れる人もいるかもしれませんが、将来はぜひ、この西尾に戻ってきていただきたいと思っています。

お配りしたパンフレットは、西尾の魅力を紹介するものでありますので、後ほど、お家へ帰ってゆっくりご覧になってください。

それと、本日2番目に「わたしたちの防災」というテーマで発表をしていただく予定をしておりますが、防災に関する資料として昨年度の学校安全総合支援事業の取組みを紹介する活動報告書と、テレビのリモコンのdボタンを活用して、西尾市の防災情報が確認できる案内チラシを配付資料の最後に入れてありますので、また参考にしてください。

なお、本日記録用として写真撮影と録音をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、中村市長からご挨拶を申し上げます。

## 市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村健です。

本日は学生議会に参加していただきまして、本当にありがとうございます。

西尾中学校の皆さんが大切にしている考え方で、このスクリーンにも書いてあるんですけども、利他という言葉がありますよね。僕はこの言葉が非常に好きで、日常生活であまり利他という言葉は使わないんですけども、ただ、人間はどうしても自分のことを第一に考えがちで、みんなが自分のことを第一に考えると争いごとが増えたりですとか、あまり世の中がうまくいかないです。自分のことよりも先に周りの人の幸せとか、周りの人のことを第一に考えると、それが回り回って自分に対しても恵まれた形になって帰ってくるので、西尾中学校にいるからということではなくて、皆さんがこれから生きていく上で、この利他という考え方は、ずっと大切にしてほしいと思っています。

本日は行います学生議会は、先ほど少し説明がありましたけれども、中学生の皆さんは選挙権はないんですけども、十何年、西尾市に住んでもらっていますし、西尾市がもう少しこうなったらいいなとか、いろいろな思いがあるだろうと思います。僕たち行政の人間としては、選挙権がある、ないではなくて、西尾市に住んでいる方については、いろいろな方のご意見を聞いて、それをこれからの西尾市に反映していきたいと思っています。特に、20年、30年先を考えると、皆さんの年代の人たちが西尾って好きだなとか、これからあの西尾に住みたいと思えるような意見をいかに取り入れて、実現していくかということが1つ重要なポイントになると思っていますので、今日はそういった意味でも、事前に用意してある3つのテーマもそうですけれども、フリートークの時間もありますので、遠慮なくいろいろな質問とか意見を聞かせてもらって、それをこれからの西尾市の参考にさせていただきたいと思っていますので、なるべく緊張せずにリラックスして、はきはき元気よくやってもらえればと思います。よろしくをお願いします。

## 総合政策部長／高原 浩

本日の学生議会は1時間を予定しております。皆さんからいただいたご意見やご提案に対しては市長からお答えしますので、よろしくをお願いします。それで、リラックスをしていただくためにお配りしております西尾茶ですが、これを飲みながら進めていきたいと申し上げたいところですが、現在感染状況が非常に厳しいということで、今から早速封を開けていただいて一口、二口飲んでいただいて、その後、会議中はマスクを外すことのないように、今日はそのような形で進めたいので、よろしくをお願いします。終了後はお家へお持ち帰りいただいて結構です。

では、始めてまいります。どうぞ、気楽な気持ちでお話してくださいね。

初めに、提案シートの1番。青山さん、板倉さん、高橋さん、よろしくをお願いします。

## 1番／青山さくら、板倉 豪、高橋俊純

3年生の青山さくらと板倉豪と高橋俊純が提案と質問をします。よろしくをお願いします。

それでは、提案シートに従い説明します。先生方にご協力いただきながらパワーポイントを作成しましたので、スクリーンを見ながら、私たちの提案を聞いていただければう

れしく思います。

今回、西尾の未来のために今、私たちにできることはないかを考えてきました。そこで、未来利他プロジェクトと題しまして提案させていただきます。それでは、提案シートに従い、説明します。

僕は、正直に言うと茶摘みが嫌いでした。虫が嫌いですし、ほこりも嫌いで、暑くて大変だからです。しかし、今年はコロナウイルス感染予防のため茶摘みを行うことができなくなり、なくなってみると、やっぱり寂しいと感じました。友達と摘み量を競ったり、毎年上手に摘めるようになったりして、やりがいがあります。また、友達と食べる弁当は一段とおいしいし、中学生時代に茶摘みを経験してきた親との茶摘みの話題は盛り上がります。それだけでなく僕たち中学生にとって、西尾の抹茶という文化に触れる貴重な機会だと考えています。

文化ということ言えば、西尾中学校には全校茶会があります。例年は来賓や保護者をお客様としてお招きし、日頃の感謝の気持ちを込めておもてなしをします。本年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、来賓や保護者はお招き出来ませんでした。他学年の兄弟学級の生徒を招き、全校茶会を通しておもてなしをしました。お抹茶は、私たちが住んでいる西尾の伝統でもあり誇りです。そして、私たちと仲間たち、私たちと親世代、私たちと地域をつないでくれる大切なものだと思っています。

3年生の学年主任の先生の実家が茶園主さんだったと聞いて、聞き取り調査をさせていただきました。中学生を含む摘み子不足の問題を解決するために、手摘み用の茶畑から機械用の茶畑へと植え替えを始めたと聞きました。

一方、調べてみると、今年の2月に西尾の抹茶を地理的表示産品の登録から取り下げたことがわかりました。伝統的な製法を保つにはコストがかかるため、コストがかからない製法で作った抹茶も西尾の抹茶として販売していくとありました。

これらの現状から西尾の抹茶という文化を私たち中学生はどのようにつないでいくのか。また、地域に親しまれる地域ブランドの存続について、どのように考えていくのかを課題として捉えました。

そこで、大きく2つを提案します。

1つ目は、提案と言うより宣言の部分もありますが、中学生が西尾の抹茶という文化に触れる貴重な機会を継続していくことです。今後もしばらくコロナウイルス対策のため、茶摘みや全校茶会の開催が厳しい状況が考えられます。しかし、私たちは先輩方がつないでくださった伝統を絶対につないでいきたいです。ですので、茶摘みに関しては人数制限や日にち、時間を重ならないように工夫することで、全員が西尾の抹茶という文化に触れる経験をすることができると考えます。また、全校茶会については、今できることを考え、実行していくことで西尾中学校に脈々と伝わるおもてなしの精神を引き継いでいきます。

私たちは、中学生の抹茶への誇りと愛着を高めることのできる全校茶会と茶摘みを継続していきます。将来、私たちが大人になった時、文化構築の担い手となり、次の世代へと伝統を継承していくことができると考えるからです。

2つ目の提案は、SNSによって抹茶スイーツや西尾の抹茶が使用されている商品を紹介することです。調べていくと、低コストの抹茶は主にお菓子やアイスクリームなどの加工食品への需要が高いことがわかりました。また現在、抹茶ブームがささやかれています。

す。僕たちにとって身近な抹茶がブームになることは、とてもうれしいです。だから、SNSによって抹茶スイーツや西尾の抹茶が使用されている商品を紹介したり、西尾出身の有名人やインフルエンサーに協力を依頼して、西尾の抹茶をもっと多くの人に知ってもらいたいです。

西尾の抹茶の地理的表示産品の登録を取り下げたことにより、加工食品への需要が高まるであろうメリットを生かし、SNSで西尾の抹茶を使用した商品の良さを拡散することで全国へさらに流通させます。全国へ流通するという事は、私たち西尾市民にとっても西尾の抹茶がもっと誇れる存在になると思います。また、茶業組合の方々にとって、生産した抹茶が流通するという事は経済的にも効果が期待でき、西尾の抹茶という伝統を将来へつないでいくということになるのではないのでしょうか。

以上が、私たちが考えた提案です。

そこで1つ質問をします。

西尾の抹茶が西尾市民に愛されているからこそ西尾の特産品としての価値があり、今後も愛され続けていくと考えています。西尾市の中学生が体験させていただいている茶摘みという文化や、西尾中学校の全校茶会を通したおもてなしの文化を私たち自身も大切につないでいきたいと考えています。

西尾の抹茶に関わる文化を継承し、ブランドをいかに存続するかは私たちに大きく関わることです。市長のお考えになられる西尾の抹茶の今後についてお聞かせください。

私たちの提案した内容についての考えも含め、ご意見をお聞かせください。

以上です。

## **総合政策部長／高原 浩**

ありがとうございました。では、発言が終わりましたので、市長のほうからお答えをお願いします。

## **市長／中村 健**

ご意見ですとか、ご提案ありがとうございます。

まずは、皆さんが経験してこられた全校茶会や茶摘みというのは、1つは西尾の伝統なので、これを今後引き継いでいきたいというのはあるんですけども、その面だけではなくて、皆さんがもう少し年を重ねて大きくなると、西尾市外の人とか、愛知県外の人と交流する機会はぐっと増えると思います。人によっては東京などに住む人もいるだろうし、その時に西尾市ってどういう町ですかということをきくと聞かれるでしょうから、自分で言えることがすごく大事になってきます。

抹茶が有名で、例えば全国的に一、二を争うぐらい抹茶が取れる町ですよというのは1つあるんですけども、全校で茶会をやっていますとか、茶摘みを授業の中でやっていますというところは、ほとんど全国でもない取組みで、今まで皆さんが当たり前やってきたことは、実はほかの町の人から見たら、「へえ、そんなことやっているんですか」ということがきくとたくさんあると思います。そういった部分からも皆さんにも大事にしてほしいし、我々としてもコロナの感染状況にもよりますけれども、なるべく実施できるように頑張っていきたいと思います。

あと、西尾の抹茶ブランド化とか、どうやって知名度を上げていくかという話ですが、これは地道にやっていくしかないと思います。本音を言うと、例えば学校の蛇口をひねると抹茶が出ますとかやれると一番いいんですけど、それは現実的に衛生面などで難しいです。今はお茶屋さんがすごく頑張ってくれていまして、GIは取り下げになりましたけれども、地域団体商標とって、いわゆる地域ブランドと言っている特許庁の商標登録が12年前に西尾の抹茶として登録できました。今は皆さんが買うお菓子だとか、スイーツなどに西尾の抹茶を使用と書いてあるものが随分増えてきていますし、愛知県以外のところの、例えばレストランだとかスイーツを売っている店でも西尾の抹茶使用という商品が増えてきています。この前で言うと、たけのこの里に西尾の抹茶使用とか、ああいう全国的に誰でも知っているお菓子に使用されていると、やっぱりうれしいですよ。そういった取り組みで着実に成果は出てきているので、それをお茶屋さんだとか、あとは僕たち行政の人間がPR活動も頑張りたいというのが特にあります。あとは、やっぱり知ってもらうためには、SNSはすごく有効なツールであって、西尾市でも今、観光親善大使というのがあるんですけども、今年の4月にシティプロモーション特命大使という、ちょっと看板を変えて、これまでよりも西尾市のことをPRしてくれるような、ここで言うとそのインフルエンサーの人とかに、もう少し数多くお願いをしていくつもりです。まだ具体的に誰というのは、ちょっとこの場で言えないんですけども、そういったインフルエンサーの方の力を借りるのも一つですし、あとは皆さん一人一人がそれぞれ持っている人間関係、友達関係など、そういったところに対して自分の発信できるやり方でPRしてくれることも非常に重要なので、インフルエンサーの力も借りるんですけども、一人一人の方にPRマンとして自覚を持って発信して欲しいと思います。

あと、最後に条例とって、法律というのは国会が作ったものを法律と言うんですけども、西尾市が作る法律のようなものを条例と言いますが、西尾の抹茶おもてなし条例を作っていく予定であります。これは抹茶というもののさらなる普及について、行政ですとか、会社、要は企業活動をやっている方々ですとか、あと市民の皆さんが一丸となって普及に取り組んでいこうという意味と、もう1つは抹茶をそのまま立てて出すという機会は、あまり日常で多くないかもしれないんですけども、お客様をおもてなす気持ちの表れになるので、その抹茶を通しておもてなしの心というのを西尾市として大事にしていきたいという意味も込めています。西尾の抹茶は西尾市が誇る財産ですので、そういった条例を作っていくことによって、これまで以上に市民の方に誇りに思ってもらえたら、西尾市以外の方が何か西尾の抹茶いいねと思ってもらえるような、そういった活動はしていきたいと思っています。

以上です。

### **1番／青山さくら、板倉 豪、高橋俊純**

ご意見をお聞かせいただき、ありがとうございます。市長さんがおっしゃったように私たち自身ももう抹茶のことは大好きですけど、今回調べることでもっと好きになったので高校生になっても大人になっても、ずっと大切にしていきたいなというふうに思います。

### **市長／中村 健**

はい、よろしくお願いします。

## 1 番／青山さくら、板倉 豪、高橋俊純

ありがとうございました。

## 総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。では、続きまして提案シートの2番目ですね。青山さんと鳥山さん、よろしくお願いします。

## 2 番／青山佳幹、鳥山絢圭

3年生の鳥山絢圭と青山佳幹が提案と質問をします。よろしくお願いします。

それでは、提案シートに従い、説明します。

南海トラフ沖地震が30年以内に起こる可能性は80%と言われており、僕たちが住む西尾市では、震度6弱以上の強い揺れが起こると予想されていると聞きました。西尾市の人口は約17万人であり、そのうち約3割は1歳未満の子供や65歳以上の高齢者の方です。災害が起きた際に、西尾市全体の被害を最小に抑えるためにも、僕たち中学生が守る側として日頃から準備をしておくことが大切であると考えます。僕たちの西尾中学校では、守られる側から守る側へというテーマの下、防災学習に取り組んできました。

そこで、次の3点の防災に関する取組みを市内のほかの中学校でも行うことを提案します。

1つ目は、オアシス通学団会です。西尾中学校では、総合的な学習の時間で得た防災に関する知識をまとめ、出身の小学校を訪問し、小学生へ発表するオアシス通学団会という行事を例年行っています。通学班ごとに分かれて小学生と交流するため、家が近い子同士で顔見知りになり、いざ避難するという場面で役立つつながりを作ることができるという良さがあります。

2つ目は、自主防災会の方に学ぶ会です。今年度、僕たち3年生は防災に関する学習を進める中で、地域の災害ボランティアの方にお話をいただく機会がありました。その場では、インターネットなどで調べるよりも、身近で現実味のあるお話をいただくことができました。また、自分たちの防災に関する知識は希薄なものであったと感じました。地域には、防災に関する確かな知識を持っている方がたくさんいます。その方々にご講話いただいたり、お話をさせていただいたりすることで知識を蓄えるだけでなく、つながりを持つことができると考えます。

3つ目は、防災給食です。西尾中学校では、年に一度、給食の時間に非常食をいただく防災給食という取組みを行っています。実際の避難時を想定できるという利点のほか、量もあまり満足できるものではないため、普段の給食のありがたみや備蓄の大切さに気づくことができます。当たり前から離れることで、備えの大切さに気づくことができると考えました。

以上が、私たちが考えた提案です。

そこで、3つ質問をします。1つ目、市の備蓄はどなたが管理されているのでしょうか。また、賞味期限の迫った食料などは、どのように活用されているのでしょうか。その

食料を防災給食として活用することは可能でしょうか。

2つ目、コロナ禍の避難生活についてどこまで想定し、どのような対処を考えていますでしょうか。また、その対処策についての情報をどのように市民に広げていこうと考えていますでしょうか。

3つ目、私たち中学生は3年生を中心に守られる側から守る側へと、意識を変えて行動していこうとしていますが、実際に災害が起こった際、私たちは地域や避難所でボランティアとして活動することができるでしょうか。

私たちの提案も含めて、ご意見を聞かせてください。

### **総合政策部長／高原 浩**

ありがとうございました。では、市長からよろしくお願いします。

### **市長／中村 健**

はい。ありがとうございます。

順番に答えていきますね。まず、質問の1つ目ですけれども、食料の備蓄については市の中に危機管理局というところがありまして、その職員が基本的に管理をしています。備蓄食料は保存期限が長いと思うんですけれども、賞味期限がありまして、期限が切れてしまって捨ててしまうのはもったいないので、大体賞味期限が切れる1年ぐらい前になったら、自主防災会の皆さんに対して希望されれば配布しますというような調査をして、希望されるところに配布しているというのが現状です。僕は防災給食ということをやっていたことを知らなかったんですけれども、すごく良い提案をしてくれたと思っていて、先ほど言ったみたいに、備蓄食料を捨ててしまうのももったいないですし、防災教育という意味からも、防災給食に使えるというのは非常に効果的だと思います。ぜひ西尾中学校だけとは言わず、市内の小中学校でその防災給食として提供できるように、教育委員会と調整をさせてもらって実現したいと思います。

2つ目ですけれども、コロナ禍により今は人が集まるのはよくないこととされているため、避難所の運営が難しい状況にあります。皆さんに1つ、お願いしたいのは、例えば台風や豪雨などの時には警報が出ますよね。もちろん避難所に避難してもらってもいいんですけれども、自宅の2階などで避難、要は安全が確保できれば、わざわざ避難所まで行く必要もないですし、自宅は難しいけれども近所の人とか、親戚の家に行くことができればそれでもいいので、必ずしも避難所に行くことありきではなくて、こういったやり方で安全が確保できるかというのを考える1つの選択肢として、避難所を考えてほしいと思います。今回、コロナ感染拡大を受け、市の対応としては、避難時に受付で検温するための体温計を購入したりですとか、あとは消毒が非常に重要になりますので、消毒液を新たに購入しました。ですので、これまでよりもコロナに対してしっかり備えが出来ていると思いますし、あとは感染対策の一環として、避難する時にどのように区分けをするかなどを考えて、テントなどを順番に購入していきたいというふうに思います。

あと、情報の広め方については、我々行政が市民の皆さんにお伝えする一番頼りにしている方法は、毎月1回発行している広報にしおです。その中で防災のススメというコーナーが設けてあるので、そういったところで情報発信をしていますし、また市のホームペ



ージや、LINE、フェイスブックなどのSNSを活用しています。あとは町内会長さんや自主防災会の皆さんに、その都度、今市がこういうことをやっていますよとか、こう考えていますよということを伝えて、そこから広めてもらうなどの方法をやっているのです、そういった方法をこれからも続けていこうと思います。もし、何か効果的な方法があったら、また教えていただければ検討させてもらいたいと思います。

3つ目のボランティアとしての活動ですけれども、もちろん可能ですし、むしろ期待しています。大規模な災害、例えば南海トラフ地震などが起こると、我々行政の人間も罹災します。そうすると、行政がどれだけ機能するかというのは、ちょっとなってみないとわからないですし、やりたいことが全部出来ないかもしれません。そういった時に、当然行政が守るということもあるんですけれども、市民の方々にも、提案していただいたように、守られる側ではなく守る側へと意識を変えて行動していただくことが大切だと思います。例えば、平日の日中は会社に行く人がいますので、避難所は高齢の方や女性などが多くなってくると思いますが、そうすると人手が足りなくなることが予想されます。そういった時に、体力的にもしっかり充実している中学生、高校生ぐらいの皆さんに手伝ってもらえると非常にありがたいと思います。避難所のことなどを含めて、今これをやってくださいとか、指示を出す人がいると思うので、それに従って協力をしてくれる立場として中学生の皆さんが自分たちからやりたいと言っていただけなのは、非常にありがたいと思います。

以上です。

## **2番／青山佳幹、鳥山絢圭**

西尾でももっと防災についての取組みを活発化させていって、もしもの時に、もっともっと備えていきたいなというふうに思いました。たくさん意見を聞かせていただけたことをうれしく思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

## **総合政策部長／高原 浩**

どうもありがとうございました。それでは、提案シートの3番目です。渡邊さん、蟹江さん、長谷部さん、よろしくお願いします。

## **3番／渡邊優輔、蟹江浩斗、長谷部楓**

3年の渡邊優輔と蟹江浩斗、長谷部楓が提案と質問をします。よろしくお願いします。

六万石の城下町西尾で、約400年も続いている西尾祇園祭。毎年大名行列やみこし、手踊りや長刀隊など、たくさんの方が様々な形で祇園祭に参加をして西尾を盛り上げています。

西尾中学校でも多くの生徒がボランティアで参加をしています。西尾市の大きなイベントということもあり、毎年この西尾祇園祭を楽しみにしている生徒は多いです。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が中止になってしまいました。僕は西尾祇園祭の実行委員会に入っています。実行委員会では、近年大名行列やみこしの担ぎ手などの人手不足で大変苦労しています。また、小中学生は西尾祇園祭の本来の目的を知らな

いのも現状です。今年度の中止は、さらなる人手不足や伝統継承の面、さらには西尾祇園祭そのものの存続の危機に直面しかねないと心配しています。

そこで提案します。1つ目は、西尾祇園祭の在り方です。西尾祇園祭の伝統を継承するために、方法を変えた西尾祇園祭の実施をするのはどうでしょうか。来年度、新型コロナウイルスの影響で祇園祭の一斉開催は困難となった場合でも、古くからの伝統であるみこしや大名行列などだけでも実施をすることで、伝統を継承することができます。

2つ目は、次世代への継承です。若い世代に西尾祇園祭の本来の目的を知ってもらうために、小学校へ出前授業をするということも考えています。実行委員の方に出前授業を行ってもらうことで、子供たちに広く西尾祇園祭の本来の目的や意義を知ってもらうことができます。また、市内の小学校高学年をターゲットに獅子舞いやなぎなた、小籠などの魅力を伝え、ボランティアを募り、実際に参加してもらうことも良いと思います。そうすることで子供たちが西尾祇園祭についてよく知り、守っていこうという気持ちを高めることができます。

以上が、僕たちが考えた提案です。

そこで2つ質問をします。来年度、新型コロナウイルスがまだ終息していない場合でも西尾祇園祭を最小限で開催することについて、市のお考えをお聞かせください。

次に、西尾祇園祭の実行委員会など高齢化が進んでいる中で、小学校に出前授業に行くなど次世代へもっと発信していくべきだと考えますが、市のお考えをお聞かせください。提案した内容についての考えも含めて、ご意見を聞かせてください。

以上で、提案の説明、質問を終わります。

## **総合政策部長／高原 浩**

ありがとうございます。それでは、市長、よろしく申し上げます。

## **市長／中村 健**

順番にお答えさせていただきます。まず、質問の1番目が今日の学生議会の中で一番答えるのが難しい質問なんですけれども、まず、基本的な市のイベントなどに対する考え方としては、これまでどおりやるのか、中止するのかの2つに1つではなくて、工夫しながらやれないかというところを第一に考えたいと思います。西尾祇園祭については、西尾市のイベントという言い方は僕は好きではないんですけれども、一番大きな事業になります。一応、3日間で二十数万人の方が入ると言われていますが、普通にやったら人が密着して密集するという3密状態になるので、難しいだろうというのがあります。祇園祭自体は毎年7月の中旬の3連休の時期にやりますけれども、逆算していくと、もう準備があるので多分4月か5月ぐらいには、どうするのかをはっきり決めないといけないと思います。今、緊急事態宣言が出されていますが、これがいつ治まるかも、まだ分かりません。3月ぐらいから高齢の方に対してワクチンの接種が始まると国は言っています。一般の市民の方が受けるのは、恐らく早くても5月からだと。全員が受けなくても、6割、7割ぐらいの人がワクチンを受けるということになると、西尾市だけでも10万人を超える方が2回接種しないといけないという膨大な作業になるので、それが終わるのが9月ぐらいになってしまうのかなと思っています。そうすると、来年度については、そういうスケジュールの中

で、西尾祇園祭がやれるかどうかというのは、正直すごく微妙な状況で、感染状況次第ということになってしまうんですけれども、来年度については厳しいかもしれないです。ただ、西尾祇園祭を楽しみにしている人もいるので、何とかやれないか考えたいと思いますし、来年度は仮に難しかったとしても、再来年度以降については中止はしなくてもいいと思いますので、コロナの対策が必要であればしっかり対策しながら、やれるやり方を探っていきたいということになります。

2つ目の質問に対してですけれども、小学校などに出前授業をしてもらうことは非常に良いことだと思いますので、ぜひ実行委員会さんのほうにやってはどうかと提案はしていきたいと思います。そういう中で、西尾中学校、小学校の皆さんで経験したことがある人がいれば、ぜひ実行委員会の皆さんと一緒に出前授業に参加をしてほしいと思います。あと、僕は西尾市の職員だった時に西尾祇園祭のことを仕事でいろいろやっていたことがあるので、個人的にも実は思い入れが強く、一般的には楽しいイベントだと思われていますが400年続く西尾城下の伝統あるお祭りなので、楽しく1日過ごしてもらうことも大事なんですけれども、何でこのお祭りがあるのかとか、そういったところまで知ってもらいたいと思っています。そのためには今提案があった出前授業をしてもらうとか、そういう歴史とかも分かった上で楽しんでもらえるのが本当は一番良いのではないかと思いますので、その辺は少し検討させてもらいたいと思います。

以上です。

### **3番／渡邊優輔、蟹江浩斗、長谷部楓**

貴重な意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

私たち中学生にも伝統を伝えたり、周りに広めていくことは出来ると思うので、西尾祇園祭存続のために出来ることはどんどんやっていきたいと思いました。

以上で終わります。ありがとうございました。

### **総合政策部長／高原 浩**

皆さん、どうもありがとうございました。

以上で、予定をさせていただいていました全ての提案、質問は終了いたしました。まだ時間も少しありますので、フリートークの時間とさせていただきます。市長、進めていただいているいいですか。

### **市長／中村 健**

はい。では質問がある人は遠慮なく手を挙げてください。

### **生徒**

市長さんは、いろいろなところで人前で話すことが多いと思います。自分は今、この学校で生徒会長をやらせてもらっていて人前で話すことが多いですけど、その時に何か気をつけていることとか、意識していることはありますか。

### **市長／中村 健**

僕が気をつけていることは、言葉を伝えるのではなくて、言葉は考えていることとか気持ちを伝えるための道具なので、なるべく原稿をそのまま読むことはせずに、自分の気持ちをその場で伝えるということを第一に考えています。

**生徒**

ありがとうございました。

**生徒**

市長さんは東部中学校出身とお聞きしたんですけど、その中学校時代に茶摘みを習ったことはありますか。

**市長／中村 健**

僕は茶摘み好きでしたよ。1日20キロぐらい摘んでいましたよ。

**生徒**

20キロですか。5キロ負けました。

**生徒**

私は先ほど抹茶について提案させていただいたんですけど、先日市長さんのフェイスブックを拝見させていただいた時に、結構奥さんへの贈り物が多かったようにも思います。抹茶についても投稿があったので、市長さんが好きな抹茶の商品があったら教えていただけますか。

**市長／中村 健**

あまりプライベートなことは投稿していないですけど、抹茶のフォンダンショコラが好きです。抹茶の苦みがちょっと弱いほうが好きです。

**生徒**

ありがとうございます。

**生徒**

中学生の時の一番の思い出は何ですか。

**市長／中村 健**

中学校の思い出ですか。これがついていうのは正直あまりなくて、ただ3年間すごく楽しく過ごせたと思います。あえて言うと、僕は水泳部だったんですけど、中学校3年生の時に雨が降らなくて水不足になってしまったんですが、水道も出る水の量が制限されて、夏の大会が出来なくなってしまったんですよ。それは良い思い出ではないですけど、何か少し思い出としては残っています。

**生徒**

ありがとうございます。

**生徒**

市長になって今までで一番良かったことって何ですか。

**市長／中村 健**

良かったことですか。自分がやりたいと思って実現できたことについて、ありがとうございますとか、うれしいですとか、良かったですということを市民の方から直接言葉で伝えられた時に、ああ、良かったなと一番思いました。

**生徒**

ありがとうございます。

**生徒**

先ほど良かったことなどをお聞きしたのですが、座右の銘などはありますか。

**市長／中村 健**

座右の銘ですか。切磋琢磨という言葉が好きで、この場で言っていていいか分かりませんが、政治の世界は結構足を引っ張り合う人が多いんですけども、そういうくだらないことにエネルギーを使うのではなくて、高め合うために競争するということは、僕はすごく良いと思っています。だから競争することは僕は悪いことではないと思っているんですけども、それはお互いに目標を目指して高め合って競争したいという意味での切磋琢磨という言葉です。

**生徒**

ありがとうございます。

**生徒**

市長さんが今まで生きてきた中で一番これは誇れるよ、自慢できるというものを教えてほしいです。

**市長／中村 健**

難しい、誇れることですか。選挙に出れたことですかね。当選出来たから言えるんですけども、いろいろな人からやめといたほうがいいんじゃないかとか、大丈夫かと言われる中でも、何とか選挙に出て当選出来たことだと思います。

**生徒**

市長さんの中に何か譲れないものだったり、プライドがという何かありますか。

**市長／中村 健**

そうですね。市長の仕事をやっている中でということでもいいですか。

**生徒**

はい。

**市長／中村 健**

自分の中でどうにも納得が出来ないこととか、自分自身をだますようなことはしたくないというところですか。

**生徒**

市長さんが西尾で一番好きなところはどこですか。

**市長／中村 健**

西尾の良いところは、僕は人が温かいと思っています。最初の入り口はちょっと不愛想な人も多いかもしれないけれども、実は心はやさしくて温かい人が多いまちだと思っているので、そこが好きです。場所はなかなか1つというのも難しいんですけども、ちなみに青山さんはどこが好きですか。

**生徒**

私の好きな場所は、西尾城の丑寅櫓があるところですか。春は桜がきれいに咲きますし、結構友達と行ったりするので、自分の中ではそこが一番好きですね。

**市長／中村 健**

僕は海辺の吉良ワイキキビーチが割と今好きで、最初に吉良ワイキキビーチと聞いた時には、ちょっと笑ってしまったんですよ。ただ結構ハワイ的な雰囲気が出ているし、海のゆったりとした感じが好きです。

**生徒**

ありがとうございます。

**生徒**

僕も恐らく高校生になれると思うんですけど、もしも市長さんが高校生に戻れるとしたら、何をしたいですか。

**市長／中村 健**

高校生に戻ったら、もっと積極的に学校外の活動などをやりたいと思います。部活と授業とで大体1日が終わっていましたが、それ以外のもっと貴重な経験がしたかったです。高校ですけど、大学でも時間に流されてしまうので、バイトとか部活とかも大事なんですけども、社会人になるとあまり時間がなくなってしまうので、本当にいろいろな経験

ができる10代後半の一番良い時期に、ぜひやりたいことを見つけて頑張りたいと思います。

**生徒**

はい、頑張ります。

**生徒**

市長さんの特技というか、得意なこととかありますか。例えば、料理とか、洗濯物を干すとか。家事に限らず、何か得意なことはありますか。

**市長／中村 健**

どうだろう、ものを覚えるのは割と得意かなと思います。料理は苦手です、食べる専門です。

**生徒**

質問というよりお願いの形になってしまいますけど、毎年西尾中学校でいろいろなボランティアに参加していて、たくさんの生徒がそういう活動に意欲を持って取り組んできたんですけど、今年コロナの影響でボランティアがなくなってしまいました。けど何か利他の心を使うというか、利他の心で何か取り組みたいということで、今3年生で手作りのマスクを作っているんですけども、それを西尾市のいろいろな方に使ってもらいたいと思っていて、3年生で作ったマスクを西尾市役所に置かせていただいてもよろしいですか。

**市長／中村 健**

はい、ぜひ。

**生徒**

また、後日市長さんに直接お渡しに行きたいんですけど、大丈夫ですか。

**市長／中村 健**

はい。大丈夫です。どこに送りたいかは西尾中学校の皆さんの希望を第一にするんですけども、1つ提案として、高齢の方々は子供たちが何かやってくれることに対してすごく喜ばれるので、例えばそういう高齢者の方がいる施設とかに送るのも1つ方法だと思うので1回考えてみます。

**生徒**

ありがとうございます。

**総合政策部長／高原 浩**

皆さん、どうもありがとうございました。お時間となりましたので、ここで終了させ

ていただきます。

それでは、平井校長からご講評をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

### **校長／平井 克明**

まずもって、本日このような機会をご提供いただきました中村市長、関係部局の皆様方、本当にどうもありがとうございました。コロナということで学校の中もそうですけれども、実際にこうやって会ってお話できる魅力といいますか、威力というのを改めて感じた次第です。

市長から、言葉ではなく気持ちを伝えるというお言葉を、先ほどフリートークの中でおっしゃっていただきました。今年の後期の生徒会は、思いを伝えるというテーマの下、自分たちのメッセージを一生懸命伝えようと、コロナの中でも出来ることを考えて頑張ってくれています。やはり、こうしたコロナの中だからこそ、実際に市長とお会いできて、市長のお言葉だけではなくてオーラを含めたところを子供たちに感じさせてもらったというのは、とても貴重な機会だったと思っています。開催できて本当に良かったです。本当にこのような機会が出来たことを感謝申し上げたいと思います。

また、特に今日ここにいるのは生徒会の役員メンバーで、西尾中学校の中でもトップのリーダーです。今いろいろなことが制限されていますけれども、自分たちで考えて、自分たちで行動して、責任を持って利他、人のために役立とう、行動しようという気概を持った子供たちです。市長もさっき言うておられましたけれども、きっと遠くない将来、西尾市、また日本や、人によっては世界のために責任を持って貢献できるすばらしい人材だと、手前みそですが、校長の私は思っています。そうしたときに、限られた時間だったんですけれども、今日の市長がお話されたようなこと、市長の思い、考え方というのは、きっとそこにつながっていく大きな良いきっかけをいただけたんじゃないかなと本当にありがたいと思っております。

ぜひ、今日の機会が自分たちの5年、10年、20年、30年後の世界にうまくつなげてもらえると、市長もきっとそれが目的であり、狙っていることだなというふうに私は感じていますので、将来の西尾市のために頑張れる人材になれるように頑張ってください。

本日はどうもありがとうございました。講評に替えさせていただきます。

### **総合政策部長／高原 浩**

校長先生ありがとうございました。本日、皆さんからいただきましたご意見、ご提案などは、今後の市政運営の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、中村市長からお礼のご挨拶を申し上げます。

### **市長／中村 健**

皆さん、今日はどうもありがとうございました。いつもに比べてマスクをしているので、実は皆さんの目がよく分かるというか、目立つんですよ。先生方に言われて渋々、仕方なくやっているわけではなくて、前向きに学生議会に取り組んでくれたというのが皆さんの目の力感で、すごく伝わってきましたので、僕もこの時間を過ごさせてもらって非常に良かったと思います。



平井校長先生からも少しお話がありましたが、政治のことに限ったことではないんですけれども、一番良くないのは他人任せにして批判だけするというので、それよりは関心を少しでも持ってもらって自分なりの意見や質問などを言ってもらえるのがいいですし、さらにもっと欲を言えば、自分に何が出来るかを考えて、自分が出来ることを行動に移してもらおうということが一番良いことだと思います。皆さん、まだ中学生なので、お金も経験もあまりないかもしれないので、今は自分が出来る範囲で出来ることをやってもらえればいいと思うんですけれども、これから先、進学や就職をすると、自分の経験やお金、人間関係などが今よりもずっと充実してくると思います。そうすると、自分自身が出来ることがいろいろ広がってくると思います。その時こそ、利他という考え方が僕は生きると思っていますので、自分のことに時間や手間暇を使うのもいいんですけれども、その時こそ生まれ育った西尾市のために自分が何が出来るんだろうというのを、改めて考えてもらって行動に移してもらえると、今以上に西尾市がより活気が出て良いまちになると思います。

今日の8人の中から将来的に何かの選挙に出てもらう人が出て「何で選挙に出たんですか」と言う時に「実は学生議会に参加したのがきっかけです」と言ってもらえると、僕は涙が出るほどうれしいです。今日はありがとうございました。

#### **総合政策部長／高原 浩**

皆さん、本日はどうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、西尾中学校の学生議会の閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会